

～商船系高専「次世代の海洋人材の育成に関する事業」へ協力～
船舶管理、港湾・物流業務現地調査、業界関係者との意見交換会の開催

日本船主協会では、優秀な日本人海技者確保のための広報活動をしております。活動の一環として、当協会は国立高等専門学校（商船系）教員への Faculty Development (FD) 研修および業界関係者との意見交換会に協力しました。同研修は、高専教員が海運界の現状に関する理解を深め、産業界の現況および最新動向を観察調査し、求められる海事技術者的人材像を理解すること、および学生が在学中に備えるべき知識や技能、資質を把握し、学生の教育指導に反映すると共に、船社等関係者と高専教員との間で産業界と教育現場の相互の現状に関する情報を共有することにより教育力の向上をめざすことを目的としています。

(1) 講演会

① 海運に関する GHG 削減

統合操船者支援システムおよび安全離着岸支援システムについて
フリートモニタリング紹介

2025年11月20日（木）、ケイライン・ウインド・サービス（株）鈴木課長、川崎汽船（株）海洋技術グループ船舶技術チーム浅井様および安全品質管理グループ安全運航チーム峯様より、同社における GHG 削減対策や DX に関する航行安全対策、取り組み事例、システム開発および今後の展望等について講演が行われました。



右から、鈴木氏、浅井氏、峯氏

② 船上の DX 活動・データ利活用と安全運航

2025年11月21日（金）、日本郵船（株）海務グループ海務情報戦略チーム高橋機関長より、DX や各種データ等を利活用した船舶機器の故障防止措置や Remote Diagnostic Center での取り組み、サイバーセキュリティ対策等について講演が行われました。



講演中の高橋氏

(2) 5 高専教員と内航海運会社の意見交換会

2025年11月20日に表記意見交換会が開催され、①「近年の学生・新入社員の行動傾向、現場適応の状況と課題」、②「船員の働き方、キャリア形成」および③

「DX・GXの取り組み事例、学校教育の要望と教育現場の実際」をテーマに活発な意見交換が行われました。特に①については長時間にわたり最近の学生・新入社員の特徴や求められる資質、各社の受け入れ態勢などについて事例を踏まえ意見交換が行われ、高専側からは、コンプライアンス強化の時流を踏まえ、これまでの指導方法や経験を踏まえた対応が困難さを増しており、教育現場ではより一層苦心している旨発言がありました。内航海運会社からも、若手船員とのトラブル回避に苦心するあまり、船内のコミュニケーション不足が散見されるといった諸問題などが挙げられました。また、女性社員の採用傾向やキャリア形成の取り組み事例などが紹介され、高専・船社双方が今後も多種多様な分野で意思疎通を図っていくことが重要との認識が共有されました。同意見交換会には内航WGメンバーの5社の他、日本内航海運組合総連合会が参加しました。



意見交換会の模様